講演・発表要旨一覧

2023. 8. 15 現在

ISLIS 第 56 回生命情報科学シンポジウム

2023 年 8 月 18-21 日（金-月）岐阜県養老町　合宿

＜会長講演＞

大ホリスティック医学とは

帯津　良一　医師・医学博士
***ISLIS** 会長, 日本ホリスティック医学協会　名誉会長(元会長)*
帯津三敬病院　名誉院長

要旨：　自然界は大は虚空から小は素粒子まで"場"の階層から成り,上の階層は下の階層を超えて含むという原理によって一体化している.だから人間まるごととは一体化した全階層を指す. また,時間的に見ても,この世だけではなく,死というプロセスの向こうに拡がる広大なあの世をも対象にして始めて人間まるごとである.すなわち生と死の統合である.かくして空間的にも時間的にも人間まるごとの概念を拡大したものが大ホリスティック医学であり,生きとし生ける者すべてが,この世にあるうちに生と死を統合してあの世に移行するといった,生と死の統合社会の実現こそ,大ホリスティック医学の究極である.

連絡先 ： 帯津 良一　医療法人直心会　帯津三敬病院 名誉理事長　〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

＜理事長講演＞

ホリスティック医学と不思議の科学の拠点に 世界一の「潜在能力科学研究所」と 「いやしのビル」の実現への始動

(Starting to a Large-Scale "***Human Potential Science Institute***" and "***Healing Hall***" for **Holistic Medicine** and **Wander Science**)

山本 幹男　博士(医学)，博士(工学)
（ **Mikio YAMAMOTO**，*Ph.D.*，*Ph.D.*）
国際生命情報科学会（***ISLIS***）理事長・ 編集委員長，　国際総合研究機構（***IRI***）理事長，
科学平和文化財団(***SPC-F***) 理事長，「潜在能力科学研究所」創立責任者，「いやしのビル」企画委員長

要旨：「**ホリスティック医学と不思議の科学 Ⅲ**」を主テーマとして，2023年8月18-21日（金-月）に, 大会長に**船戸宗司** ***ISLIS***理事,船戸クリニック院長に依頼し,**第56回生命情報科学シンポジウム**を 主催 **国際生命情報科学会**(***ISLIS***, イスリス)，共催 **国際総合研究機構**(***IRI***, *アイリ,愛理*), **科学平和文化財団**(***SPC-F***)，後援 **岐阜県養老郡 養老町、養老郡医師会,養老町在宅医療介護連携推進協議会,日本ホリス手ティック医学協会**(JHMA)で**岐阜県養老町**にて開催する。開催には、**岐阜県養老町**など地元の強力なご支援を頂き感謝する。コロナ禍で約3年間ネット開催を余儀なくされた後の初の集会となる。多くの方の発表や参加を望む. 次回の**第57シンポ**は**2024年春**に**山本幹男**が大会長として千葉市稲毛か東京駅近くの新たな会場で「**ホリスティック医学と不思議の科学 Ⅳ**」を主テーマとして開催予定。その次の**第58シンポ**は**2024年夏**に開催予定で大会長候補に依頼中。その後の大会長を募集中。***ISLIS***は, その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた***IRI***と共に，***IRI***-「**潜在能力科学研究所**」を創設し「**いやしのビル**」を建設し, **ホリスティック医学**を含むこの分野の**世界一の拠点**に育てたい．企画, 構想, 連携, 研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい．このために現本部にスペースを既に借増し, ***IRI***スタッフの増員公募も進めている. これまでに, 小型ビルの基本設計は完了し、超大型ビルを含む大型ビル３棟の企画設計もほぼまとまりつつある．***ISLIS***の設立趣意は, 物質中心の科学技術から, こころや精神を含んだ21世紀の科学技術へのパラダイム・シフト（枠組革新）を通じ, 真理の追究と共に, 人間の「**潜在能力**」の開花により, 健康, 福祉, 教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ, 自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である．***ISLIS***は1995年の創立来28年間, 現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なこころや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング, 気功, 潜在能力, 超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た. この間に生命情報科学シンポジウムを, 海外での開催や15回の合宿形式を含め56回主催し, 英文と和訳付の国際学会誌***Journal of International Society of Life Information Science***

（*J.Intl.Soc.Life Info.Sci.* or ***Journal of ISLIS***）を年2号刊行し，総計7，000頁以上の学術論文と発表を掲載し続けてきた．この間に，不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた．しかし，その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない． 本学会は現在，世界の11カ所に情報センターを，15ヵ国以上に約170人の会員を，擁している．

キーワード： ホリスティック医学，国際生命情報科学会，*ISLIS*，イスリス，生命情報科学，潜在能力科学，国際総合研究機構，*IRI*，アイリ，愛理，科学平和文化財団，科学，精神，脳，心身，代替医療，CAM，統合医療，IM，予防医学，未病，精神神経免疫，スピリチュアル，ヒーリング， 気功，ヨーガ，瞑想，潜在能力，催眠，心，不思議，世界像，世界観，超常現象，超能力，超心理，平和，幸福，船戸クリニック，養老町

山本幹男 理事長直通 nsnpoiri@gmail.com Fax 043-255-9143 090-9232-9542

＜大会長講演＞
「ホリスティック(全人的)医学と不思議の科学 III」
― 船戸クリニック挑戦 30 年の視察・体験 ―

船戸 崇史 医師
第 56 回生命情報科学シンポジウム *大会長,*
*国際生命情報科学会(**ISLIS**)理事,日本ホリスティック医学協会 副会長,*
船戸クリニック 院長

【要旨】 この度,歴史ある**国際生命情報科学会 第 56 回生命情報科学シンポジウム**の大会長をお引き受けすることになり光栄です.また,本シンポジウムの3泊4日の合宿も私のホームグランドの岐阜県養老にて開催させて頂ける運びとなり,養老町はじめ養老郡医師会等のご協力も賜り,鋭意準備中です.皆様,奮って,演題のご提出とご参加をお願い致します.

今回の主テーマは「**ホリスティック医学と不思議の科学 III**」としましたが,とりわけ私自身が取り組んできました「**がんの本質的治療**」につきまして **ー船戸クリニック挑戦 30 年の視察・体験ー** と大層な副題を付けさせて頂きました.

ご存じのように,日本人の死因の1位はがんであり,毎年増加の一途をたどっております.しかしこれは高齢化に伴う増加であり年齢調整後死亡率を見ますと,がん死亡率は 1990 年後半からゆっくりですが減少しております.偏に早期発見早期治療の効果と思われます.しかし,問題は罹患率で,年齢調整後のがん**罹患率は 1985 年以後右肩上がりに上昇**している事です.**がん発症が増えている.これをどう考えどう予防するのか？こそ, がん治療全体の一番のテーマではないか？**と考えます.

副題の船戸クリニックに関して記します.私は消化器外科の立場から,沢山のがん患者との出会いの中で「**がんも身の内,がんも生きておりがんにも言い分がある.それを聴く事ががん予防でありがん治療である**」という仮説を立て,**がんの言い分を聴く施設「リボーン洞戸」を 2018 年に開設**しました.その過程やアンケートによるその評価を当日ご紹介させて頂きます.

次に,こうしたがん治療を中国数千年の歴史の中ではどう対処してきたのでしょう.**特に漢方に造詣の深い船戸博子先生（当院副院長）**からは,**中国伝統医学でがんの捉え方治療法**を紹介いただき,その考え方での**薬膳も今回体験**頂こうと思っております.

次にイタリアの欧州最大のスピリチュアルコミュニテーである**ダマヌールの市民であるくおん先生（肥後先生）**です.もともと血液内科の医師です.ダマヌールの思想からがんとは何かを読み解き**ダマヌールの世界観と病気観からがん治療法**をご紹介いただきます.当日ダマヌールサーキットをご体験していただけます.

次に西洋医学の発展の原動力は「死への不安」があると言われています.この本質的,根源的なテーマでもある「**死への不安」への対処法を禅宗僧侶の野口法蔵師**からご紹介いただきます.野口氏は奥チベットと言われるラダック（冬期_－40℃という3000m 級の高山にある寺）で 4 年間修業された僧侶です.五体投地や冬の滝行,断食行などから座禅断食と言う独自の修養法を編み出され当院でも実践しております.私は「死ぬ前に一度は体験してほしい」と年 3 回程度 2 泊 3 日の座禅断食会を実施しております.**今回座禅会の指導**もお願いしております.

最後に、リボーン洞戸で退行催眠テラピーを行っております、細川明子テラピスト（本来はイギリスで資格取得したシュタイナーのオイリュトミスト）です。「ポリヴェーカル理論で読み解くリボーン洞戸の意味」と題して、テラピストから見たリボーン洞戸の意義をお話頂こうと思っております。

クリニックは,当初は西洋医学中心でしたが,**在宅看取り**にも力を入れた関係で,**介護保険施設**も増築しました.現在はクリニックを中心に,**デイケア,デイサービス,有料老人ホーム,グループホーム,居宅支援事業所,訪問看護ステーション**などを併設しております.また 12 年前には,より本来の健康を取り戻すことを目的に**統合医療センター**を増設.**種々テラピーや高濃度ビタミン C 点滴,水素ガス,温熱治療,還元電子治療,オゾン治療などの補完代替医療やより美しくを目指した美容部門**も併設しました.

最終日**月曜**には**歴史,有名スポットとして,養老の滝や荒川修作作の天命反転地**なども**バスツアー**探索予定です.どうぞ楽し

いひと時を体験頂ければと町を挙げてお待ちしております.

キーワード: 国際生命情報科学会(ISLIS),第 56 回生命情報科学シンポジウム,ホリスティック医学,岐阜県,養老町,船戸クリニック,リボーン洞戸,在宅看取り,介護保険施設,デイケア,デイサービス,有料老人ホーム,グループホーム,居宅支援事業所,訪問看護ステーション

連絡先 :船戸クリニック総務: 〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344　　0584-35-3335　soumu@funacli.jp

＜副大会長講演＞

ホリスティック医学の真髄を求めて

降矢 英成 医師

***ISLIS** 理事、 日本ホリスティック医学協会 常務理事(前会長)*

赤坂溜池クリニック 院長

要旨：当学会のシンポジウムの前々回では「ホリスティック医学と量子物理学」について,そして,前回では「ホリスティック医学の真髄」というタイトルで発表の機会を得た.言い換えると,前々回は科学やメカニズムを「量子物理学」でどこまで可能なのかという医学・科学的側面を検討し,一方,前回は「チベット医学」と「心身相関」というホリスティックな臨床面の拡張を目指して検討したといえる.しかし,ホリスティック医学/医療は,現代医学や通常科学の枠に収まらない現象も含めており,その全貌はまだ明確ではなく,このためそのメカニズムもまだ未解明な療法も少なくない.今回は,強いて言えば「エネルギー医学」を中心的な切り口として,ホリスティック医学の真髄を追究する検討を試みる予定である.具体的には,「合宿」という今回の形式を鑑みて,「検討課題」をいくつか挙げさせていただき（主に仏教のアビダルマの仏教心理学についてのスリランカ出身のテラワーダ仏教のアルボムッレ・スマナサーラ長老の『ブッダの実践心理学』全 7 巻（サンガ）から）,発表後の質疑応答と,その後の夜の自由討論の場で議論が膨らむ素材になればと思っている.

キーワード：ホリスティック医学、エネルギー医学、仏教心理学、チベット医学、量子物理学

連絡先: 降矢英成, 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-5-15 溜池アネックスビル 5 階 電話･03-5572-7821 E-mail: akatame5@kt.rim.or.jp

＜講演＞

漢方におけるがん治療

船戸 博子 漢方医･食医

船戸クリニック（日本、岐阜）

要旨:患者さんを診るとき,最初に望診,その後に舌診,脈診,手相診を行います.漢方医は,おひとりおひとりが生まれつき持っている性質や体質に注目しますので,処方する薬も養生法も個々の患者さんで違います.その患者さんの状態に合った薬や食事,運動を提案していきます.

がん腫塊は気･血･水の滞りと考えますので,気･血･水の流れを良くし,腫塊を小さくする漢方薬を使い,温熱に腫塊を散らし,免疫力をアップする補気薬を飲んでいただくことを基本としています.がん治療の療養生活を支えるのに,とても漢方は役に立ちます.なぜなら,自分に合った薬を飲んだり,食事をしたりすることで,がん治療に耐えるだけの体力をつけ,且つ,がん治療の副作用を軽減できるからです.

特に,自分の体質に合った食事を摂っていただくのが何より大切だと考えます.血液検査で糖質･資質･たんぱく質の栄養分析を行い,管理栄養士が従来の食生活を聞き取り,そして漢方診察を行います.その方の漢方的な性質（証),「気･血･水」,「肝･心･脾･肺･腎」の五臓のどこに「虚」があり「実」があるのかを判断し,食材ひとつひとつの性質とその方の体質を照らし合わせて,食材を選んでいき,メニューを組み立てます.これを「パーソナル薬膳」と呼んでいます.食べてほしい食材と食べない方が良い食材,またご自身に合った調理法もお伝えしますので,自宅にもどってからもご自身に合った食事を作ることができます.

また,2020 年 10 月に Villa CAMPO ヴィラカンポを開業しました.ここでは,船戸クリニックで保険診療を,また統合医療センターで自費診療やテラピーを受けながら,患者さんのための食事を摂っていただき,ゆっくり滞在していただけます.ヴィラカンポは患者さんご自身を生きる場所です.当日は,施設のご案内はもちろん,薬膳ランチをご用意してお待ちしております.

キーワード:漢方,気・血・水,パーソナル薬膳,ヴィラカンポ

連絡先 :船戸クリニック総務: 〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344　　0584-35-3335　soumu@funacli.jp

＜講演＞

ダマヌールのがん治療

くおん　医師
船戸クリニック（日本、岐阜）

要旨:イタリアに欧州最大のコミュニティの連合体ダマヌールがある.そこでは,75000 年以上にわたって蓄積された秘教的知識をもとに,ユニークな人生哲学を前提とし,人間の精神的な進化に向けた精神的探究と持続可能な社会の実験と実現を目指している.創立から 49 年目を迎えるダマヌールのコミュニティ社会は,国連から未来の持続可能な社会モデルとして,2005 年に表彰されている.
なぜ,ダマヌールが,北イタリアに創設される必要があったのか？　地球のシンクロニックラインとは？　魂と肉体とマインドの複合体である人間.　多種多様なエコシステムの一部として存在する人類.　ダマヌールが考える健康感とは何か？　ダマヌールの死生観とは？　現代の地球上では,唯一ダマヌールが復興させ,発展させたセルフ学とは何か？シンクロニシティとは何か？　ダマヌールの代表的なヒーリング,プラノテラピーとはどういうものか？　それ以外のダマヌールが補完的に用いるヒーリングにはどういうものがあるのか？　呼吸と食事の重要性.様々なアプローチで健康に取り組むダマヌールを紹介する.

キーワード:**ダマヌール,プラノテラピー,セルフ学,呼吸,シンクロニシティ,輪廻転生.**

連絡先　:船戸クリニック総務:　〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344　　0584-35-3335　　soumu@funacli.jp

＜講演＞

事前に死を想定して恐怖を取り除く練習をすることの重要性

野口　法蔵
禅宗僧侶（日本、長野）

要旨:肉体的に死を迎える人の肉体的な痛みを取るには,モルヒネなど疼痛治療が有効でありますが,それはあくまで治療側からの対処法であって,肉体の痛みは取れても死にゆく人,本人の苦しみは取れないというのがあります.まして,恐怖心からくる苦しみはどのようにしたら良いのでしょうか.
それには,「死と言うものは,どのような過程をたどるのか」「行き着く先はどのような事になるのか」を知りたいところであります.ただ皆向こうに行ってしまって教えてくれる人はありませんので,不確かではあってもイメージを持っておく必要があります.そうすれば,実際に死が訪れる時までの不安の軽減になります.それを引導してくれるのが,本来宗教者でありましたが,昨今では「看取士」と別に「死の臨床士」と言うのも存在します.海外ではチベットに「死の準備」とか「死の訓練」という書物も存在します.
　しかし,ここまでは外部の人の力を借りるので,その先,人の声も届かなくなったときに自分自身でやっていける事は,今までの経験を生かすことと,唯一できるのは「呼吸法」だと思います.経験と言うのは食べられなくなったときにも大丈夫心と思える「断食」のようなものを経験しているかどうかで,これは経験者は体が覚えていると思います.
そして,やはり絶食した時に行った呼吸法は体が獲得していて,動けないまま天井を見つめながら,「自分の呼吸を数える」「意識的に呼吸をする」と言うことで,心は安定すると思います.実際には食べられなく,水も飲めない腹膜播腫の状態から呼吸法で水が飲めるようにまで戻り,寝れるようになったケースもあります.体が獲得していたこと,それが最期の状態で使える最良の方法につながります.そういった方法を実際の臨床を例に挙げてお話しできればと思います.

キーワード:**死にゆく過程,呼吸法,断食**

連絡先　:船戸クリニック総務:　〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344　　0584-35-3335　　soumu@funacli.jp

＜講演＞

ポリヴェーガル理論で読み解くリボーン洞戸の意義
~「がんの言い分」を聴くとはどういうことか

細川 明子
オイリュトミスト、退行催眠療法士（日本、岐阜）

要旨:ポリヴェーガル理論は,アメリカ・イリノイ大学精神医学名誉教授ポージェス博士によって1994 年に発表された理論であり,哺乳類,特に人間が「つながり」を育む生きものであることに注目し,この哺乳類特有の機能への副交感神経系の関与を研究したものである. リボーン洞戸は,日本で唯一のがん患者のためのリトリート施設であり,「がんが消えていく生き方」の実践及び,がんを通して人生を生き直したいと全国からたくさんの人が訪れ続けている.リボーン洞戸では,がんは「言い分」を持っており,その「言い分」を受け取ることによって,その人の人生がより生き生きと豊かなものになっていくと考えている.今回,このリボーン洞戸においてその主旨の元,カウンセリングを行ってきた経験を報告すると共に,ポリヴェーガル理論を用い,その意義を考察する.またさらにリボーン洞戸においてのさまざまな取り組み,また存在意義についても同様にポリヴェーガル理論を使って考察する.

キーワード:**ポリヴェーガル,リボーン洞戸,がんの言い分**

連絡先 :船戸クリニック総務: 〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1344 0584-35-3335 soumu@funacli.jp

＜講演＞

ピラミッドパワーの科学的研究（2007 年 10 月～2023 年 8 月）
(Scientific Research on Pyramid Power: Studies from October 2007 to August 2023)

高木 治[1], 坂本 政道[2], 河野 貴美子[1], 山本 幹男[1]
[1] *国際総合研究機構(IRI)（日本,千葉）*
[2] *㈱アクアヴィジョン・アカデミー（日本,千葉）*

要旨 : 我々は 2007 年 10 月以来,ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー（ピラミッドパワー）を実証するため,厳密に科学的な実験を続けている.ピラミッドパワー検出実験は,バイオセンサ（キュウリ切片）を PS 頂点および 8m 離れた較正基準点に 30 分間置き,その後バイオセンサを密閉容器に移し,容器内の揮発成分（ガス濃度）を測定するという方法で行った.実験は主に,条件が異なる 2 種類の実験を行なっている.I）「ピラミッドパワー実験（PP 実験）」: この実験は,PS が潜在的に持っている,いわゆるピラミッドパワーを検出する実験である.この実験は,次に示す「瞑想実験」の瞑想日から,20 日以上経過後に,被験者の影響が除外された状態で実験を行った.II）「瞑想実験」: この実験は,バイオセンサを PS 頂点に置いている間,被験者が PS 内に入り瞑想を行う実験である.また,瞑想中の結果と比較するため,瞑想の前と後の時間帯にもバイオセンサを PS 頂点に置いた実験を行った.瞑想実験の結果から,PS に対する被験者の影響は,瞑想後 20 日間程度で検出されなくなることが判明した.本講演は主に I）のピラミッドパワー実験（PP 実験）の結果について報告する.即ち次に示す PP 実験に関する次の 6 つの結果である.1) PS の潜在力（ピラミッドパワー）の存在を明らかにした（1%有意で実証：夏期データ）.2) PS の潜在力の影響が,PS 頂点に 2 段に重ねて置いたバイオセンサに対して,下段と上段で異なることを明らかにした（ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数Ψが,下段のバイオセンサに対するサイ指数Ψは-3.01 でマイナスの値,上段に対するサイ指数Ψは 5.52 でプラスの値となり,下段と上段で有意差を得た.$p=4.0\times10^{-7}$）.3) PS の潜在力によるピラミッド効果が,季節変化するものと,季節変化しないものがあることを明らかにした.4) PS の潜在力の詳細な解析の結果,バイオセンサ間の絡み合い（Bio-Entanglement）と考えられる現象を明らかにした.ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数Ψが,PS の潜在力による効果Ψ’と Bio-Entanglement による効果Ψ”とに分離できることを明らかにした.5) PS の潜在力による効果Ψ’が,バイオセンサの特性であるガス濃度の概日リズムの位相に影響を与えることを明らかにした.6) PS の潜在力による効果Ψ’が,常に一定の影響力を及ぼす静電場や静磁場などのような場の一種であることを明らかにした.ピラミッドパワーに関する研究は,未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中,我々の実験結果は,この分野において世界初の研究成果である.今後この成果が一般に広く認められ,科学における新たな研究分野となり,幅広い応用の可能性が期待される.

キーワード：ピラミッド,潜在力,エンタングルメント,バイオセンサ,キュウリ,ガス,サイ指数

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2　ユウキビル 4FA　　電話　043-255-5482　電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献
Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2023) Potential Power of the Pyramidal Structure VIII: Exploration of Periodic Diurnal Oscillation of Pyramid Power and Bio-Entanglement. *Natural Science*, **15**, 179-189. https://doi.org/10.4236/ns.2023.154013

＜研究発表＞

ピラミッドパワーの日内振動の解析
(Analysis of Diurnal Oscillations of Pyramid Power)

高木 治 [1], 坂本 政道 [2], 河野 貴美子 [1], 山本 幹男 [1]
[1] *国際総合研究機構(**IRI**)（日本,千葉）*
[2] *㈱アクアヴィジョン・アカデミー（日本,千葉）*

要旨：我々は 2007 年 10 月から,ピラミッドパワーを実証するため,ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)を作製し,厳密に科学的な実験を続けている.ピラミッドパワーは通常の電気計測機器では検出が難しく,バイオセンサ（キュウリ切片）を用いた実験を行っている.PS 頂点および 8m 離れた較正基準点にバイオセンサを 30 分間置き,その後密閉容器の中のバイオセンサから放出された揮発成分（ガス濃度）を測定・解析することによって,ピラミッドパワーを実証し,その特徴を明らかにしてきた.これまでの研究成果として,ピラミッドパワーに関する原著論文 12 編,バイオセンサの特性に関する原著論文 3 編,総合報告 3 編,書籍中の 1 編を発表した.バイオセンサに対するピラミッド効果を詳細に解析した結果,バイオセンサ間に存在する奇妙な関係性を発見した.その関係性はあたかも量子エンタングルメントの絡み合いに似た現象であり,我々はその現象を Bio-Entanglement と名付けた.Bio-Entanglement の発見によって,それ以前にピラミッド効果の大きさを表す指標と考えていたサイ指数Ψは,ピラミッドの潜在力（サイプライム指数Ψ’）と Bio-Entanglement（サイダブルプライム指数Ψ”）が混在している状態であることが判明した.一方,我々は生体であるキュウリから作成したバイオセンサから放出されたガス濃度が,概日リズムを持ち,そのリズムが季節変化をすることを明らかにした.ガス濃度の概日リズムの一周期は冬では 8 時間,春では 6 時間,夏では 24 時間,秋では 12 時間と 24 時間の混合周期であった.概日リズムは,生体であるキュウリの特性であり,ピラミッドの潜在力の影響を受けても受けなくても概日リズムの周期に変化はなかった.バイオセンサが概日リズムという周期的な日内振動をしているため,我々はピラミッドの潜在力（サイプライム指数Ψ’）や Bio-Entanglement（サイダブルプライム指数Ψ”）も周期的な日内振動をしている可能性について解析した.その結果,ピラミッドの潜在力と Bio-Entanglement は,ほぼ周期的な日内振動はしていないという結論を得た.このことからピラミッドパワーは,常に一定の影響力を及ぼしている静電場や静磁場などのような場の一種であることが示唆された.ピラミッドパワーに関する研究は,未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中,我々の実験結果は,この分野において世界初の研究成果である.今後この成果が一般に広く認められ,科学における新たな研究分野となり,幅広い応用の可能性が期待される.

キーワード：ピラミッド,潜在力,日内振動,エンタングルメント,バイオセンサ,キュウリ,ガス

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2　ユウキビル 4FA　電話　043-255-5482　E-mail：takagi@a-iri.org

参考文献
Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2023) Potential Power of the Pyramidal Structure VIII: Exploration of Periodic Diurnal Oscillation of Pyramid Power and Bio-Entanglement. Natural Science, 15, 179-189. https://doi.org/10.4236/ns.2023.154013

＜臨床報告＞

星状神経節ブロック（SGB）,断食,糖質制限食,低分子化フコイダン（LMF）を中心とした統合医療の癌,潰瘍性大腸炎,クローン病著効例,ケトン体,アディポネクチン,腸内細菌報告

西本 真司
西本クリニック（日本,和歌山）

要旨：癌の統合医療として星状神経節ブロック,近赤外線星状神経節近傍照射療法,マイナスイオン療法,断食,糖質制限食,漢方薬,自律訓練法,音楽療法,笑い療法,イメージ療法,気功,サプリメント,波動水,バチルス菌飲料など各自の症例の体質に合わせた選択をした統合医療と低分子化フコイダンを組み合すことで今回,著効を示す 30 代男性Ⅲ期大腸癌,60

代女性Ⅳ期甲状腺がん,60 代女性 2 期乳癌,40 代 1 期大腸癌,全大腸炎型 UC,50 代女性クローン病症例の経過報告を行う.腸内細菌データに関しても,潰瘍性大腸炎を克服した著者本人と同じような傾向がみられた事を報告する.人の腸管内には 500~1000 種類,100 兆個以上の腸内細菌が生息し,この腸内細菌が消化液では分解できない食物繊維などを微生物発酵により代謝し有用な代謝産物に作り替える働きをしている.こうした代謝産物は,腸管粘膜でエネルギー源として使われるほか,腸管の収縮運動を高める働きをしている. 腸内細菌はリボゾーム RNA を用いた 16sDNA のメタジェネティック分析による最新の菌種同定法で,350 種の菌名のチェックが可能となっている.著者の場合,菌名が同定された細菌の内 75，3%が酪酸産生菌で,腸管粘液層で重要な働きをするムチン分解菌が,10，7%で,大腸癌症例は,2 回測定データで酪酸産生菌 44，4%,43，2%　ムチン分解菌 13，1%,14，0%のデータを示した.マウスに高繊維食を腸内細菌が作る酪酸が制御性 T 細胞への分化誘導に重要な Foxp3 遺伝子の発現する事が福田らの研究し示されている.制御性 T 細胞は,大腸炎症抑制の作用が注目されている.今回,著者と経過良好大腸癌症例の,短鎖脂肪酸の,（酢酸,プロピオン酸,酪酸）の内もっとも分化誘導率の高い酪酸を産生する菌の腸内細菌率が高いことが,判明した.その部分の研究はここ最近で始まったばかりではあるが,欧米では便移植で奇跡的な回復を見る症例も報告され,臨床応用までが行われている.著者自身,潰瘍性大腸炎の診断から 33 年,25 年の長期完全寛快を過ごす中で,アカデミックなデータとして,腸内細菌の解析によるデータ解析に同じ菌での傾向があればと,完全寛快潰瘍性大腸炎 5 例クローン病 1 例も腸内フローラデータも解析中である.10 年以上の 2～3 か月に一回の糖質制限食,断食でのケトン体,アディポネクチン,の筆者の長期のデータのまとめとそのデータの読み取り方に関して, IBD の国のガイドラインの治療法に強い副作用が出現した,本気で根治を目指したい症例のサポートを統合医療として行ってきた流れも踏まえて今後の医療の良き提言として考察し報告したい.

キーワード：統合医療,低分子化フコイダン,潰瘍性大腸炎（UC）,大腸癌,星状神経節ブロック,腸内細菌,酪酸産生菌

連絡先：西本真司　　西本クリニック　和歌山市七番丁 16 番地和一ビル 2Ｆ　電話　073-428-1220　E-mail　n2clinic@xpost.plala.or.jp

＜一般発表＞

93.1%が実感した新しい宇宙エネルギーの技術について

津田 涼子
株式会社 オリジナルブレイン（日本、千葉）

要旨:アインシュタインの空間の電磁エネルギーの理論を元に、脳の疲労を和らげ、細胞の感情を軽減しています。2018 年より約 160 名の実践者のうちの 2 割が医療従事者であることから、統合医療の現場での認知と活用の場を広げることを積極的に行います。実施したセラピーにより、変化が起きた症例を3つに絞り、病院からいただいたデータや動画、行った方のインタビューを動画で公開します。
①前立腺の数値（SPA）のグラフと、技術を実施した看護師のインタビュー
②リウマチにより 3 年間車椅子だった男性が、壁づたいに歩くまでになった動画
③2 年前から脳の血管にあった4つの瘤が変化した画像
肉体は必ず亡くなるものなので万能ではないのですが、これまで手立てがなかった症状に活用ができることがわかってきました。

キーワード: **体調不良と感情，脳疲労，細胞の感情**

連絡先: 津田涼子 株式会社 オリジナルブレイン 千葉市緑区おゆみ野中央 9－14－2－101
電話：070 - 4576 - 4104　E-mail　: jupiter.healing@gmail.com

＜一般発表＞

オーダーメイドヘルスマネジメント ゴールベースアプローチ

朝日 舞
一般社団法人健康科学研究所,日本ライブセラピー協会
有限会社 創美堂 代表取締役
G.F.C.（グリーンファンタスティックコミュニオン）代表（日本,千葉）

要旨:人が病気になるには,人それぞれの理由と原因が存在するが,自己の重い症状を通して理解できたのは,中医学で言われるところの七情のコントロール不全に加え,思考・感情・言葉・行動・生命力の五つの要素が影響する.
この七情と五つの要素は,人体の根幹に存在する神性との不一致により,その証として脊柱や骨盤は瞬時に歪み,人はその歪みの影響によって身体的苦痛を体感することで,本来の問題に気付ける. よく考えれば理解できる事だが,それぞれの体が歪むと

き,誰かが外的に歪めたわけではなく,自ずと内側より体が歪んでいることを理解できるだろう. 私の考える全人的医療とは,心・体・魂・神性(仏性)の喜ぶ生き方をすることである. 1991 年のこと,気功家を目指した中で初めての施術の機会がやってきたが,肝臓がんのクライアントは,こぶし大程の大きさとなったリンパ節の転移による末期症状であった.30 日の期間で 97%の改善があったが,神性との不一致の解消を実施したことに起因する.

キーワード: : 七情,五つの要素,末期肝臓がん,脊柱と骨盤の歪み,神性(仏性)

連絡先:朝日 舞 日本ライブセラピー協会 〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 5－24－27 TEL 047-427-3381 電子メール: info@live-therapy.com

＜一般発表＞

気とは

野村 明子
有限会社 日吉堂(日本、京都)

要旨:東洋医学の視点,現代医学の視点の双方から,気とは何かについて考察したい.東洋医学からは,経絡指圧の創始者である増永静人先生と,さらに経絡指圧を現在も発展してられるタオ指圧の創始者,遠藤喨及先生が考える気とは何かについて.現代医学からはダニエルキーオン著者の「ひらめく経絡」より抜粋し,ご紹介いたします.
最後に,指圧の作用について量子力学の観点も含めて考察したい.

キーワード: 気、経絡指圧、潜在意識、ホリスティック医学

連絡先: 野村明子 有限会社 日吉堂 京都市東山区祇園町北側 347 E-mail :tulip.akn@icloud.com

＜一般発表＞

マコモ耐熱菌の不思議

吉田 美穂
株式会社 FlicFlac 代表
一般社団法人 Gibberish-Lab. 共同代表理事
株式会社マコモ(東京,日本)

要旨: 古くから薬草、 霊草として親しまれてきた植物の真菰を母体として誕生したマコモ菌。摂氏千度の熱でも耐えるなど生命力の強いマコモ(耐熱)菌の驚くべき効果について,科学的にはまだ解明されていないものの,誕生から 80 年近くたった現在まで,愛用者による様々な病気改善、治癒の事例など,多くの声が寄せられている.そんな不思議なマコモ菌の誕生や様々な驚くべき効果など,体験談を交えながら紹介する.

キーワード:微生物,免疫力,霊草,症状改善

連絡先: 吉田美穂 株式会社フリックフラック 〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 2-18-11-1F
http://www.serendi-pity.net E-mail:m.yoshida@flicflac.jp

＜報告＞

～「ラストフロンティア」と呼ばれる所以とビジネスチャンス～

山本 光広
ちゃぶ台株式会社(日本、東京)

要旨:ミャンマーは 2012 年 3 月末に経済制裁を受け強制鎖国状態に.自国通貨「チャット」の為替相場はそれまでの 1 チャット 12 円～19 円から 0.065 円へと大暴落に.さらに 2022 年 10 月,資金洗浄やテロ資金供与対策に関する国際的な基準策定機関の金融活動作業部会(FATF)は,ミャンマーをブラックリスト(行動要請対象の高リスク国・地域)に追加すると発表した.北朝鮮,イランに続き 3 カ国目のブラックリスト入りとなる.世間的には軍事政権下でブラックリストに入る“危険で危ない国”とのイメージがもたれていますが,国民性は熱心な仏教徒のため非常に温厚で協調的,そして親日です.豊富な労働力と大きな市場を背景に「アジア最後のフロンティア」とも呼ばれています.このミャンマーが 2023 年 8 月末,民主化に動いています.ミャンマーと日本がこれからどのように関わっていけるかの可能性を示唆します.

キーワード:キーワード:ミャンマー,国際政治経済,ビジネスチャンス,日本の有事対策

連絡先:山本光広 ちゃぶ台株式会社 〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 6-7-1-316 電話 070-1227-0701 Mail: yamamoto.mmc@gmail.com